

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071901179
法人名	社会福祉法人 大浦福祉会
事業所名	グループホーム 愛の里白寿荘
所在地 (電話番号)	福岡県田川市大字奈良1534-31 (電話) 0947-45-2513

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年8月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	19人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 1階建て1階部分
------	------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)10,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(2年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,000円				

(4) 利用者の概要(8月16日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 84.15歳	最低	60歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田川病院 / 藤下医院 / 山本歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム愛の里白寿荘は、住み慣れた地域で暮らし続ける在宅ケア及びサービス機能の一端を担い、田川市の在宅ケア拠点としての機能を果たそうと運営者・管理者・職員が丸となって取り組んでいるグループホームである。周辺は住宅地としての新たな建て替えがすすみ、豊かな緑に囲まれた静かな環境を有し、同じ敷地内に保育園も運営し、日々の子どもの元気な姿や声が入居者の何よりの楽しみとなっている。同じ敷地内に保育園があることで、入居者の子どもの見守りなど、子ども達との交流・ふれあいの中で関係が生まれ、ホームでの暮らしが生き生きとしたものになっている。餅つき大会など合同行事も多く、入居者の智恵や能力を活かす場として、入居者に喜ばれている。建物は木を基調とした造りになっており、広い敷地内にゆったりと建てられ、全てにゆとりがあり、明るく清潔で、入居者が一人やグループで、ウッドデッキで休んだり、ソファで話したり、思い思いに過ごすことができる空間となっている。今後は、更に田川市の在宅ケア拠点としての地域密着型サービスの機能の充実が期待できる、楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を受け、個別の業務日誌のフォーマットを工夫し、マニュアルの見直しなども積極的に取り組んでいる。地域との連携は、地域密着型サービスの役割を果たそうと事業計画を検討中で、地域の交流を図る機能の充実など今後の展開が期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員で時間がある時にミーティングを行いながら自己評価に取り組んでいる。自己評価により、日々のケアやサービスの振り返りができている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、入居者の状況・食量や睡眠・室温管理・ホームの空き状況など現状報告を行うとともにホームの課題(地域密着型サービスの機能の充実・入居者の状態に応じた個別活動など)を検討している。地域の情報は民生委員の参加により、情報を入手し、地域との交流・ふれあいを高めていきたいと考えている。参加に関しては、メンバーのスケジュール調整が難しく、日中に限らず、時間設定を行ったり、行事後に家族参加をお願いするなど、参加しやすい条件の工夫が望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族は面会が多く、面会の際には職員が入居者の状況を報告すると共に、家族の意向などを把握できるように努めている。また、利用料の支払いの際も家族とのコミュニケーションを図り、意見などを言っていただけ関係づくり・雰囲気づくりを心がけている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の情報は、運営推進会議で民生委員により情報提供をいただき把握しており、地区の草取りなどに参加している。併設のデイサービスや保育園利用の家族との交流を基本に、そこから地域への交流の輪を高めたいと考えている。今後は、地域密着型サービスの役割を充実していく計画があり、現在検討している段階にある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「さらなる人生に向けてまた新たな鐘がなる」を掲げ、「それぞれの方が望んでいる生活を実現するために誠実に心の声に向き合い、ご家族や地域等、広い視野で支援していく」としている。また、運営方針にも「社会とのつながりを持ちながら、活気ある生活を支援する」と掲げている。地域密着型サービスの役割をふまえ、独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は機会あるごとに管理者・職員で振り返り、理念に基づいたケアやサービスの提供がなされているか、確認を行い、理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の情報は、運営推進会議で民生委員により情報提供をいただき把握しており、地区の草取りなどに参加している。併設のデイサービスや保育園の家族との交流を基本に、そこから地域への交流の輪を高めたいと考えている。今後は、地域密着型サービスの役割を充実していく計画があり、現在検討している段階にある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を真摯に受けとめ、個別の業務日誌やマニュアルの見直しを行い、積極的に改善している。自己評価も職員全員で時間がある時にミーティングを行い日々のケアやサービスの振り返りを行っており、評価の意義を理解している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、入居者の状況・食事量や睡眠・室温管理・ホームの空き状況など現状報告を行うとともにホームの課題(地域密着型サービスの機能の充実・入居者の状態に応じた個別活動など)を検討している。地域の情報を把握する場としても活用している。今後は、運営推進会議の参加しやすい日時や時間帯の設定など工夫が望まれる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは頻りに連絡を取り、相談できる関係を構築している。生活保護担当者も定期的な訪問があり、入居者の情報交換を行うなど連携ができています。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	高齢者の権利擁護の研修として、「基本的人権」「権利」「人が人間らしく生きるために欠かせないもの」などをテーマとした研修会に参加している。今後も引き続き職員の研修受講を期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「グループホームだより」を発行し、入居者と保育所の子どもの交流・行事における入居者の参加の状況などを写真でわかりやすく報告している。また、半年ごとに、入居者のアルバムを作成し家族に大変好評となっている。個別の金銭出納帳があり、毎月、残高を家族が確認できるようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は面会が多く、面会の際には、職員が入居者の状況を報告すると共に、家族の意向などを把握できるように努めている。また、利用料の支払いの際も家族とのコミュニケーションを図り、意見などを言っただけの関係づくり・雰囲気づくりを心がけている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者とのなじみの関係を中心に職員を配置し、状況に合わせて職員の勤務調整を行っている。なじみの職員の他にサポートできる職員の配置により、より多くの職員との情報の共有・関わりを大切に、入居者のサポートができるように支援している。法人内の職員のスキルアップも考慮しながら、入居者とのなじみの関係を大切にケアやサービスの提供がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員は、性別・年齢などを理由に採用条件から排除することはなく、職員の持つ資質(思いやり・寄り添う心など)を考慮し採用している。また、職員の自己実現を図るために専門職の資格取得を奨励し、勤務ローテーションなどバックアップしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者への対応が粗末なものにならないように度々話し合い、その都度、職員同士で注意しあっているが、家族アンケートにより、時として言葉かけに少し配慮がほしいとの声がある。日々のケアやサービス提供の中で、再度振り返りを期待したい。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	内部研修は年間計画が立てられ、1ヶ月に1回行っている。外部研修に参加した際は、日常業務の中で時間をつくり、職員に伝達研修できるように取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	田川市で「筑豊地区を良くしていこう」とグループホーム連絡会が結成され、1ヶ月に1回、情報交換を行っている。田川市が主催する「福祉祭り」の協力を行ったり、田川市の福祉のまちづくりに貢献している。今後はネットワークを活かし、地域への認知症の理解を高めることを期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	最初にグループホームの雰囲気を感じていただくためにホーム全体が見渡せる場所で面接を行い、入居者と家族の話をじっくりと聞くようにしている。その後、日帰り体験や体験入居を通じて、納得して入居していただけるよう取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	グループホームの特徴である保育園児との交流・ふれあいを通じて、子どもの成長を見守り、子どもとの合同行事では、得意分野を活かす取り組みを支援している。また、敷地内に菜園があり、職員と共に収穫や料理を楽しんだり、日常の中で、入居者の能力を活かす取り組みを行っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	ユニットごとに入居者の生活暦一覧表があり、職歴・趣味・楽しみ・本人の意向がわかるようになっている。日々の職員の気づきなどを含め、生活一覧表を基本に、内容の充実が期待される。		生活一覧表を基本に日々の暮らしの中で声かけをしたり、表情を観察し、一人ひとりの思いや希望を把握して気づいたことはメモを取るなど、更なる生活一覧表の内容を深めていくことが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者の状態に応じて、入居者・家族・職員の介護計画を作成している。服薬に関しては、薬の多い方もおり、医療連携のもと、看護師との調整により服薬の注意が必要である。また、薬の副作用の確認が必要であり、日々の介護計画の中で服薬にも留意した検討が求められる。また、医療連携加算のもと、看護計画の作成が求められる。		入居者の中には、薬が多い方もおり、服薬の注意・副作用についての観察が必要である。医療連携体制により、訪問看護師の看護計画作成が求められ、看護師との連携の中で介護計画が作成されることが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な見直し及び状態変化に応じた見直しを行っている。家族の方より、介護計画の見直しの際、十分な説明がほしいとの声の一部あるため、今後、検討してほしい。		介護計画の見直しの際には、アセスメントをもとにチーム皆でカンファレンスを開き、その記録を残しておくこと計画作成の際に参考となる。また、入居者や家族の参加もお願いしたい。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	併設のデイサービスや保育園との連携により、季節の合同行事が多く、ホームの入居者・職員以外に日常的な刺激が多い。入居者の希望に応じて、デイサービスのジェットバス完備の入浴ができるなど、暮らしの幅が豊かな点が魅力となっている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	基本的に希望に応じた、かかりつけ医が受診できるように支援している。かかりつけ医の受診の際には、家族から状態報告を受けるなど、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に重度化した場合や終末期について、看取りに関する対応指針を説明している。また、医療が必要になった際の対応や重度化した際の援助について、家族や主治医・ソーシャルワーカーと話し合いながらすすめている。今後は、ホームで看取りを行う際には、家族の付き添いが必要であるなど、諸条件を検討しホームで看取る場合の前提条件などを検討することが求められる。</p>		<p>医療連携体制加算の算定要件である「重度化した場合における指針」は、看取りに関する考え方・本人及び家族との話し合いや意思確認の方法等の看取りに関する指針を定めることが求められており、関係者との話し合い・検討により、指針を定めることが求められる。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>書類は事務所に保管・管理し、個人情報の取り扱いについては、職員全員で注意している。記録類も家族の閲覧を考慮し、表現に気をつけるなど工夫している。</p>		<p>日々のケアやサービス提供の中で、入居者に向けての言葉かけや接し方により、入居者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねていないか、日常的に確認していく取り組みが望まれる。</p>
24	54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者は、思い思いにその人のペースを尊重した1日が過ごせるように支援している。その日の着たい服の選択やヘアスタイル・お化粧品など、希望にそった支援を行っている。また、その日の状況より、活動をうながすために興味を引き出すように努めている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昼食は法人内の栄養士により、献立が作成され、デイサービスと同じ食事となっており、夕食はホームで作っている。入居者は箸を準備したり、テーブルを拭いたり、できる範囲で手伝っている。職員は弁当持参で入居者と共に食卓を囲み、必要に応じて入居者の食事介助を行っている。BGMに童謡が流れ、職員と入居者が楽しく食事が取れるようになっている。</p>		
26	59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は、希望に応じて入浴できるように支援している。入居者の希望に応じて、デイサービスのジェットバス完備のお風呂も入浴できる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	グループホームでは、特に「食」を楽しんでいただくために、マンネリ化にならないように、バリエーションに富んだ食事を提供している。また、ドライブなどの外出の際には、外食も楽しんでいただくようにしている。日常的には菜園づくりや草取り・編物など、日々の楽しみを見出していだけるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホームの敷地は広く、木も植えられ、天気の良い日は散歩コースとなっている。買い物は希望や力に応じて買い物を楽しんでいただけるように支援している。また、季節に応じて、花を見学したり、近郊の物産館に出かけている。敷地が広く十分に外気にふれる機会はあるが、個別に応じた外出の機会を更に増やすことが望まれる。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員の見守りにより、安全面に配慮し、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	半年に1回、避難訓練を実施している。緊急時には、民生委員や近隣の方への協力を依頼している。今後は、地域の協力のもと、避難訓練を実施していくことが求められる。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養摂取量は、法人会の栄養士の献立作成により確認している。水分摂取量は、食事とおやつを基本に必要な量を確保している。摂取量の変化により、状態の変化の早期発見に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は各ユニット共に天井が高く、対面式のキッチンがあり、木のぬくもりを感じる居心地の良い空間となっている。2つのユニットの雰囲気が異なり、どちらもゆったりと過ごすことができる空間となっている。季節感を感じていただくために特に花や緑にこだわり、ホームの中でも自然を感じることができる工夫がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、どの居室も明るく、自分の部屋として、畳を敷いたり、テレビや籐椅子・テーブルを置いたり、思い思いの空間となっている。入居者2人の部屋の間にはトイレがあり、夜中へのトイレなど入居者が安心できる環境となっている。トイレのドアも開けやすいように工夫があり、自立した暮らしを維持する空間の配慮がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			